

# 私立 山梨英和大学

取組名称 学生の夢を明確化・具現化する、PDCA活用によるキャリア支援

取組担当者 進路支援室 室長 川島 秀一

## 1. 本学の概要

学校法人山梨英和学院は、「敬神・愛人・自修」をスクールモットーとし、1889(明治22)年に創設された。このモットーの趣旨は、「一人ひとり、ひとつひとつがすべて神により与えられた命であることを常に心に留め、傲慢になることなく謙虚に生きること(敬神)」、「他者への愛、他者からの愛に気づき、その愛に応え、愛に生きること(愛人)」、「奉仕することの尊さとその術を知り、自らを高め、成長させること(自修)」である。

このような教育方針の下、本学は2002(平成14)年に短期大学から4年制大学に改組した。2010(平成22)年5月1日現在、在籍者数は大学で1,046名(内、学部1,016名、大学院30名)となっている。

本学の構成は人間文化学部人間文化学科という1学部1学科である。2009(平成21)年度から始まった新教育課程においては、「ヒューマンケア」「グローバルコミュニティ」「ヒューマンマネジメント」の3つの基本的理念の上に、学生達のキャリア形成をきめ細かに支援する7コースを導入した。7つのコースは総合人間文化、心理臨床、心理社会、情報システム、ビジネスコミュニケーション、英語・英語文化圏、日本語・日本語文化の各コースで構成され2年次後期にいずれかを選択し、3年次からコース履修が始まる。将来を見据え、教養性と専門性を高めることが可能となる。時代の変遷の中にあっても、首尾一貫して愛と奉仕の精神を基礎とする国際的な視点に立って、社会に貢献できる人材を育成するための礎となって今日に至っている。

## 2. 本取組の概要

本学では、2009(平成21)年度から新教育課程を導入し、「自由な学び」と「キャリア形成」を主軸とした新しいスタイルの教育を展開している。それは心理、情報、言語(英語・日本語)、文化の学問領域を横断的・総合的

に学ぶとともに、学生の将来の進路選択や資格取得を支援するカリキュラムである。

本取組は二つの主軸のうち「キャリア形成」を主眼とする。具体的には、①学習指導相談システムの整備による支援体制強化、②インターンシップ等による職業観の涵養、③資格取得支援によるビジネス基礎力の強化、④キャリアガイダンス等の充実による就職力アップ、⑤キャリア形成のツール(キャリアポートフォリオ)の導入である。①～④のキャリア形成支援等を通して学生が主体的に行う取組を⑤キャリアポートフォリオ等で管理・点検することにより、PDCAサイクルを身に付けるよう育成する。本取組により学生の夢を明確にし、実現を可能とする学士力の取得を目指すものである。

## 3. 本取組の趣旨・目的・達成目標

計画の策定に先立ち、2008(平成20)年度に全学生(1,000名)対象とし記述式にて満足度調査を実施した。調査は「授業・カリキュラム」「立地・環境」等の17項目に対し「満足しない(1点)」「やや満足しない(2点)」「どちらともいえない(3点)」「やや満足(4点)」「満足(5点)」の5段階での評価を依頼した。有効回答数は577件であり、結果(学年別満足度平均点)は下表のとおりであった。

表1 学年による満足度平均点

項目	全体	1年生	2年生	3年生	4年生
6. 資格取得への支援	3.10	3.51	3.00	3.03	2.89
7. 進路支援	3.28	3.32	3.05	3.28	3.53
8. 卒業生の就職実績	3.12	3.11	3.10	3.13	3.15
総合評価	3.03	3.41	2.79	2.97	2.95

※ 17項目のうち就職関連のものを抜粋。

※ 満足度平均点：5段階評価の点数を合計し該当人数で除して算出。

表2 進級による満足度平均点の増減の推移

項目	1年生→2年生	2年生→3年生	3年生→4年生
6. 資格取得への支援	-0.51	0.03	-0.14
7. 進路支援	-0.27	0.24	0.24
8. 卒業生の就職実績	-0.02	0.03	0.03
総合評価	-0.63	0.18	-0.02

以上より、「資格取得への支援」(以下6.)では就職活動に直面している4年生に対する満足度平均点が低いこと、「進路支援」(以下7.)では低・中学年(1、2、3年生)の満足度平均点が低いこと、「卒業生の就職実績」(以下8.)では変化はあまりないが総じて平均点が低いことが伺える。

8. は6. 及び7. の結果であり、8. を上げるためには、6. 及び7. の充実を図ることが必要であると考える。また、各項目とも2、3年生の満足度平均点が低い。これは学生生活に慣れ、更に入学当初の目的が希薄化してきたことにより、学習やそれを生かした将来の進路が描けず「学習意欲の低下」延いては「学校生活」に対する不満につながるおそれもあるのではないか。そこで「低中学年時に、学びとキャリアプランニングを結びつける」ことにより「本学で学んで成長したことを生かして進路決定をした学生の数を増やすための施策」が達成できると仮説を立てた。この仮説に基づき、①学習指導相談システムの整備による支援体制強化、②インターンシップ等による職業観の涵養、③資格取得支援によるビジネス基礎力の強化、④キャリアガイダンス等の充実による就職力アップ、⑤キャリア形成のツール(キャリアポートフォリオ)の導入、の5点を行動目標としてキャリア形成支援プログラムを設定した。このプログラムはPDCAサイクルに基づき、達成目標の管理を適切に行い、浸透を図るものとする。

#### 4. 本取組の具体的内容・実施体制

学生は年間の目標を立て(PPLAN)、実現のための行動目標を明確にし、行動する(DO)。行動をする上で教育課程内外にわたり、必要な能力を取得できるよう支援を教職員が行う。高学年には就職力アップのためのキャリアガイダンスを実施する。行動の点検は半期毎に学習指導相談システムであるアドバイザー等と行い(CHECK)、次年度以降の改善に繋げる(ACTION)。これらの年間の

取組はキャリアポートフォリオで管理する(MANAGEMENT)。具体的な内容は次のとおりである。

##### (1) 学習相談システムの整備による支援体制強化：

アドバイザー制度等を活用し、特に1・2年生に対しては指導体制の充実を図り本学における学習の目標策定及びその実現をサポートする。また3・4学年においてはその他、希望進路実現のために進路支援室が個別面談等により進路支援を行う。各相談ではキャリアポートフォリオを使用し、学生の活動履歴を把握し支援に活用する。

##### (2) インターンシップ等による職業観の涵養：

インターンシップ等を通して職業観の醸成と仕事とのミスマッチを回避し、就職活動をスムーズに行うことを目的とする。インターンシップは正課・外それぞれのプログラムを用意する。また、職業観の涵養を図るために企業・社会人からの仕事に関する講話を聞く機会を設ける。

##### (3) 資格取得支援によるビジネス基礎力の強化：

これにより、専攻分野外においても、実社会で役立つよう、特に職業生活において必要とされる汎用的技能を高める資格取得に注力する。また、新卒未内定者に対しても講座を履修できるように、特別科目等履修生制度を導入する。

##### (4) 進路ガイダンス等の充実による就職力アップ：

就職活動支援に関して本学では行っている進路ガイダンスや就職対策勉強会の充実を図る。履歴書・エントリーシート対策に始まり、ビジネスマナーの取得や企業見学会等の企業研究を通し就職活動に直結するスキルを身に付ける。

##### (5) キャリア形成のツールの導入：

キャリア形成のツール(キャリアポートフォリオ)を通し、本プログラム①～④の取組を管理し、PDCA活用によるキャリア支援に繋げる。今期はツールとしてはキャリアデザインノートの導入を考えている。

以上の取組を行う実施体制としては、学長を中心とした全学体制により取り組む。学習指導相談においてはアドバイザー制度等を活用する。相談ではキャリアポートフォリオを使用し、指導体制の充実を図る。行動目標等の支援は基礎ゼミ等において実施する。またインターンシップにより職業観の涵養を図る。以上の

実施は教員が行い、資格取得及びキャリアガイダンス運営は事務職員、推進母体は進路支援室となる。

## 5. 本取組の評価体制・評価方法

### (1) 学習指導相談システムの整備による支援体制強化：

支援体制強化に関しては、学生の相談数を指標とする。進路・履修相談も行うことから、1日の相談数・5件増加を目標とする。

表3 学生面談数推移

年	件数	日数	平均
07年	828	254	3.3
08年	906	235	3.9
09年	832	218	3.8

### (2) インターンシップ等による職業観の涵養：

インターンシップを通して職業観の醸成と仕事とのミスマッチを回避し、就職活動をスムーズに行うことを目的とする。期待される効果としては、体験をとおした仕事観の確立が考えられ、将来に対する生き方をしっかり見据えた形で職業選択をすることが期待できる。インターンシップの対象学生は2、3年生とする。

本行動目標に対する評価指標はインターンシップ終了後アンケートにおいての満足度とする。評価基準は「不満（1点）」「やや不満（2点）」「どちらでもない（3点）」「やや満足（4点）」「満足（5点）」の5段階で評価してもらい平均点が4.5以上…5、4.5未満～4.0以上…4、4.0未満～3.0以上…3、3.0未満～2.0以上…2、2.0未満…1とする。

表4 インターンシップ

年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
履修人数	35	27	12	27
満足度	4.0	4.3	4.4	—
評価	4	4	4	—

インターンシップ経験学生の進路を見ると、内定率も高く、また、インターンシップ先と同業社に就職した実績も見られたことから、インターンシップの充実を図る。評価指標を満足度とし、4.5以上を目指す。

### (3) 資格取得の支援等によるビジネス基礎力強化：

本学では、上述した7コースでの教育を主としている。専攻分野を通じて学士力を培うものとするが、実

社会で役立つよう、特に汎用的技能の職業生活において必要とされる技能を高める取組に注視する。1年間で履修できる単位数は40単位とされており、職業生活で必要とされる技能を取得する為のカリキュラムは少ないのが現状である。そのため、昨年度より1年生を対象に「基礎ゼミ1」を導入した。そこでは、学ぶ力をつけることを目標とし、知る力、聴く力、読む力、調べる力、話す力を習得できるカリキュラムを展開している。さらに、課外授業においてビジネスに関連した資格の推奨を行うことでビジネス基礎力を上げることとした。具体的にはすでに開講されているすべてのビジネスにおいて必要とされる簿記講座の他、秘書検定講座、販売士講座、ITパスポート講座を開講する。受講者数及び合格率を評価指標とする。

### (4) 就職活動支援の充実：

昨今の経済状況下、内定率は厳しい結果となっている。進路に関しての満足度を上げるために、前年度以上の内定率を達成することを目標とする。そこで就職活動の成否に直結する就職活動支援の充実を図ることとする。

就職活動支援に関して本学では様々な取組を行っている。進路ガイダンスや就職対策勉強会、個別指導、保護者対象進路説明会、学内合同企業説明会等であるが、今年度はこれらの支援のうち就職活動の直接支援である、進路ガイダンスの充実を図る。進路ガイダンスは各学年を対象とし、随時行っている。特に3年生対象進路ガイダンスを頻繁に開催して(22回/年)、自己分析、企業研究、履歴書作成、面接指導等就職活動に直結する実践的な指導を「就職・進学の手引き」を活用しつつ行っている。参加人数はテーマによって異なるが、2008(平成20)年度には平均25名程度であった。例年ガイダンスに参加する学生の内定率が高い結果となっているので、就職希望の学生の参加人数の向上を図るとともに、ガイダンス内容の充実を図る。

本行動目標に対する評価指標は3年生進路ガイダンスの参加率とする。評価基準は就職希望者のうち「60%以上…評価5、59%～40%…評価4、39%～20%…評価3、19%～10%…評価2、10%未満…評価1」と設定し、参加率50%を目標とする。

表5 進路ガイダンス

項目	2007年度	2008年度	2009年度
就職希望者	153	134	155
平均参加数	25	30	—
参加率	16%	22%	—
評価	2	3	—

今後は、進路ガイダンスへの参加率の向上を図るために、内容の見直しや学生への告知を検討したい。また、これまでの内容では、こちらから就職に関する情報提供を主としたインプット中心であったが、今後は情報提供を受けた学生に課題を与え自らが取り組むことのできるアウトプット型へと転換を図る。

#### (5) キャリア形成のツール(キャリアポートフォリオ)

##### の導入：

学生の進路に関する動向をなるべく早い時点から把握するため、「進路登録カード」及び本学オリジナルの「キャリアデザインノート」を全学生に配付し、進路意識の推移を確認する。また、進路意識を培うために、「キャリアデザイン」を正規科目とし自己のキャリアプラン構築方法を学ぶ機会の提供を行う。この「キャリアデザイン」と「キャリアデザインノート」を連動する。具体的には、大学で学んでいることと自分の進路意識を「キャリアデザイン」の授業において結びつける一助とし、その結果として自分のキャリアプランを「キャリアデザインノート」に記述する。また「キャリアデザインノート」については、学生の記述に対し、各学生のアドバイザー教授がコメントを付して返却することで情報の共有及び密なコミュニケーションを行う。

キャリアデザインノートの活用は、アドバイザーとの密なコミュニケーションにより充実すると考えるため、本行動目標に対する評価指標は、学生数に対するキャリアデザインノートの記入率とした。昨年度の各学年の結果は以下のとおりとなった。評価基準は、「80%以上…評価5、79%～60%…評価4、59%～40%…評価3、39%～20%…評価2、20%未満…評価1」と設定し記入率50%を目標とする。

表6 キャリアデザインノート

学年	1年	2年	3年	4年	合計
学生数	235	215	249	235	934
記入者数	160	109	50	45	364
記入率	68%	51%	20%	19%	39%
評価	4	3	2	1	2

キャリアデザインノートは1、2年次で卒業後の目標に備えるための大学での過ごし方を、3、4年次では在学時の行動目標とそれを生かしてのキャリアデザインを記述するものとなっている。1、2年次学生に浸透することで充実した大学生活の過ごし方にはつながる。しかし、3、4年次学生への浸透が不十分であるため、卒業

後のキャリアデザインの構築に対しての効果は現時点では少ないと思われる。本行動目標を導入から浸透へと切り替え、特に3、4年生への浸透方法が期待される。

(1)～(5)の総合的な効果測定として、在学中の適切なキャリアデザイン支援の有効性を示す適切な指標を考え、進路決定時のサポート体制において調査することとした。卒業時の進路結果及びそれに対する満足度を評価することで教育目標の達成に繋げたい。

ここで、達成目標は卒業時の進路決定満足度とし、具体的な評価指標としては、

- ①卒業時の進路決定満足度：卒業時に進路に関しての満足度調査を実施し、評価基準（「不満」「やや不満」「どちらでもない」「やや満足」「満足」の5段階で評価してもらい「やや満足」「満足」の割合を合計したものを「満足」とし、その割合が80%以上…5、80%未満～60%以上…4、60%未満～40%以上…3、40%未満～20%以上…2、20%未満…1）において2013(平成25)年度までに評価5を目指すこと。
- ②総合評価：学生の4年間の授業評価及び進路決定の満足度や意見要望等を経年的に調査し進路決定におけるキャリア支援の有効性を検討する。
- ①は定量的評価、②に関しては定性的評価となる。

## 6. 本取組の実施計画等

以上の取組により学生の将来の夢を明確にし、その実現を可能とするキャリア支援とする。入学時に学生生活の目標を設定し、生徒から学生へと意識を変え、2年次には深く学ぶ力を身に付け将来を見据えたコース選択、3年次には職業後の進路選択と実現のための計画策定、4年次には希望進路の実現と将来設計等を実施。本取組で学生の成長に繋がるPDCAを活用した支援体制を構築する。

本取組では全学体制を布き、キャリア支援を実施し点検評価を行う。この取組はPDCAサイクルに則り実施するものである。また学生の満足度を評価指標としているので、学生の視点に立った支援の実施が期待されるものである。そのため本学の教育目標を達成に寄与する取組であると考えるので、支援の成果を毎年度検証し、継続して取り組む、キャリア支援とする。